

公立大学設立準備委員会委員からのご意見（抜粋）

（訪問日時）平成 28 年 12 月 1 日（木）～15 日（木）

【新教育課程（案）について】

- ・新教育課程（案）には、公立化等検討有識者会議での意見が随所に取り入れられており、よろしいかと思う。
- ・工学部でのマネジメント教育は大事なことである。
- ・最近の学生は、人間関係力やコミュニケーション力が乏しい。1 年次からコミュニケーション力や日本語力を身につける科目を入れるべきである。かつ PBL 教育も力を入れる必要がある。
- ・企業では、コミュニケーション力とディベート力が大事になっている。日本語はもちろん、英語を含め、理科大でもグローバルにコミュニケーションができるような授業を行っていただきたい。
- ・「材料力学」「流体力学」「熱力学」「機械力学」の「4 力学」は、工学の基礎科目として非常に大事だと思う。
- ・今後は「人工知能（A I）」に関する学習が大事で、こうしたことを理解している人材が現場に入っていくことが必要である。
- ・「通信・ネットワーク分野」では、無線（ワイヤレス）通信が一般化しているので、しっかり学習させてほしい。「先進自動車分野」「電気分野」では、強電系の科目に力を入れてほしい。
- ・公立化すると県内学生の比率が下がるかもしれないが、県内企業への就職率は下がらないように、諏訪地域の学習も行うなど尽力いただきたい。諏訪地域の企業でも就職の受け皿が必要である。

【インターンシップ】

- ・インターンシップ、特に海外でのインターンシップは、地域社会との連携、グローバルな目が開くなど、重要である。学生は積極的に参加が重要である。
- ・公立化を契機に、大学だけでカリキュラムを考えるのではなく、地元自治体や産業界とタイアップしたカリキュラムもお願いしたい。自治体の大学担当課だけでなく産業振興担当課とも連携してインターンシップ先を開拓し、多くの学生に行ってほしい。
- ・諏訪地域の中小企業の多くがインターンシップの受け入れ先になってほしい。これについて、地元自治体あるいは商工会議所等も支援してほしい。色々な企業がバックアップしてくれると学生の選択肢の幅が増えて良いし、教職員も学生も育っていく。

【人材育成】

- ・昔と比べて、科学技術の発展により学習分野が飛躍的に増大している。学部の4年間ではしっかり力をつけきれないので、企業で即戦力となるには、やはり大学院まで含めた6～7年間の教育が必要と感じている。
- ・諏訪地域の製造業から即戦力としての期待値が高いので、工学基礎科目は当然だが、製造現場や品質管理のことも学んでいただくと有難い。
- ・今やコンピュータシステムなしでは金融機関の業務は成立しない。今後は金融機関でも理工系（コンピュータシステム技術開発関係）大学出身の行員を増やして、委託先に任せるばかりではなく積極的にシステム開発や商品開発を行っていかねばならない状況にある。新公立大学では情報システム系の人材育成をお願いしたい。
- ・地域に根差した大学、地域活性化の源、地域に優秀な人材を輩出することが重要である。

【地域との連携】

- ・大学と地元自治体や産業界とのタイアップは公立化の最大のメリット。地元がこれからの公立大学を育てていくことで、さらに大学運営を良くしていくことになる。地域創生への寄与にあると考える。
- ・地域連携研究開発センターをつくれるとのことだが、個々の企業からの技術相談をワンストップで受け付け、各教員に繋げられると良い。公立大学になるのだから、教員とは別にコーディネーターを数名雇用し、相談体制も拡充させてほしい。
- ・地元企業がもっと利用しやすく、自由に活動スペースを使えるようにすることが必要である。
- ・地域企業の役に立つ大学になってほしい。そうすれば、学生にとっても企業にとっても良い循環になる。

【その他】

- ・最近の保護者は、面倒見がいい、きめ細やかな教育、学習支援策、就職対策をしっかり行っていると言うと反応がよい傾向にある。
- ・昨今の状況をみると、学生にとっての魅力と同じくらい保護者にとっての魅力というのも重要な要素になってきていると思う。学生は保護者の意見に影響を受ける面もあるので、保護者への情報発信も大事。
- ・アパートでの親切な対応により、諏訪や茅野が住みやすいところだという思いが強まれば、一層学生がこの地域に残ると思う。地域に学生応援団がいないと学生はこの地域に残らない。